

2023～	研究指導(論文指導)	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	研究演習担当各教員	

■授業のテーマ

修士論文の作成を進めるために、学位請求論文構想発表会、中間報告会、及びその予行に出席し、実践研究のまとめ方、プレゼンテーションの方法などを学ぶ。

■授業の目的

修士論文の発表について、資料のまとめ方、プレゼンテーションの行い方を学び、社会福祉の実践研究者、研究的実践家としての資質を高める。

■授業の到達目標

本学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻のデュプロマ・ポリシーに従い、「行学一如」を旨として、研究的実践家、実践研究者として、その成果をまとめ、社会へ向けて発信することができるようになる。

■授業の概要

担当教員の指導を受け、学位請求論文構想発表会における修士論文研究計画、学位請求論文中間報告会における作成状況報告、最終報告会における報告資料などの作成、発表を行う。

また、学位請求論文中間報告会、学位請求論文最終報告会に出席して、他の修士論文の報告を聞き、論文の作成、報告の方法を学ぶ。

■提出課題

課題1 (事前課題の1つ)	学位請求論文構想発表会の発表資料を作成する ※指定の発表用様式にて作成すること
課題2 (事前課題の1つ)	中間報告会の報告資料を作成する ※指定の報告用様式にて作成すること
課題3 (事前課題の1つ)	第2回中間報告会の報告資料を作成する ※指定の報告用様式にて作成すること

■アドバイス



担当教員からの指導を十分に受けること。



担当教員からの指導を十分受けること。1年次に参加した中間報告会を参考にすること。



担当教員からの指導を十分に受けること。1年次に参加した第2回中間報告会を参考にすること。

■在宅学修15のポイント

* 1～5までを学位請求論文構想発表会までにおこなう。6～10までを学位請求論文中間報告会までにおこなう。
11～15までを学位請求論文第2回中間報告会までにおこなう。

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	研究計画書作成の方法を学ぶ①	研究の枠組み(背景、目的、方法) 先行研究のレビュー	修士論文研究計画法概論の授業で学んだ内容を確認しながら進めること
2	研究計画書作成の方法を学ぶ②	研究の枠組み(背景、目的、方法) 先行研究のレビュー	修士論文研究計画法概論の授業で学んだ内容を確認しながら進めること
3	研究計画書作成の方法を学ぶ③	研究の枠組み(背景、目的、方法) 先行研究のレビュー	修士論文研究計画法概論の授業で学んだ内容を確認しながら進めること
4	研究計画書作成の方法を学ぶ④	研究の枠組み(背景、目的、方法) 先行研究のレビュー	修士論文研究計画法概論の授業で学んだ内容を確認しながら進めること
5	研究計画書作成の方法を学ぶ⑤	研究の枠組み(背景、目的、方法) 先行研究のレビュー	修士論文研究計画法概論の授業で学んだ内容を確認しながら進めること
6	修士論文の中間報告の研究報告資料の作成について学ぶ①	データの収集(調査方法)、データの分析 研究結果	参加した報告会での、他の修士論文中間報告の内容、方法も参考にすること
7	修士論文の中間報告の研究報告資料の作成について学ぶ②	データの収集(調査方法)、データの分析 研究結果	参加した報告会での、他の修士論文中間報告の内容、方法も参考にすること
8	修士論文の中間報告の研究報告資料の作成について学ぶ③	データの収集(調査方法)、データの分析 研究結果	参加した報告会での、他の修士論文中間報告の内容、方法も参考にすること
9	修士論文の中間報告の研究報告資料の作成について学ぶ④	データの収集(調査方法)、データの分析 研究結果	参加した報告会での、他の修士論文中間報告の内容、方法も参考にすること
10	修士論文の中間報告の研究報告資料の作成について学ぶ⑤	データの収集(調査方法)、データの分析 研究結果	参加した報告会での、他の修士論文中間報告の内容、方法も参考にすること
11	修士論文の第2回中間報告資料の作成について学ぶ①	結果の考察 社会福祉学研究 実践研究 研究の意義	修士論文全体のまとめだけではなく、この研究の社会福祉学研究としての意義、研究成果が実践研究として社会福祉分野にどのような意味を持つのかについても考えること
12	修士論文の第2回中間報告資料の作成について学ぶ②	結果の考察 社会福祉学研究 実践研究 研究の意義	修士論文全体のまとめだけではなく、この研究の社会福祉学研究としての意義、研究成果が実践研究として社会福祉分野にどのような意味を持つのかについても考えること
13	修士論文の第2回中間報告資料の作成について学ぶ③	結果の考察 社会福祉学研究 実践研究 研究の意義	修士論文全体のまとめだけではなく、この研究の社会福祉学研究としての意義、研究成果が実践研究として社会福祉分野にどのような意味を持つのかについても考えること
14	修士論文の第2回中間報告資料の作成について学ぶ④	結果の考察 社会福祉学研究 実践研究 研究の意義	修士論文全体のまとめだけではなく、この研究の社会福祉学研究としての意義、研究成果が実践研究として社会福祉分野にどのような意味を持つのかについても考えること
15	修士論文の第2回中間報告資料の作成について学ぶ⑤	結果の考察 社会福祉学研究 実践研究 研究の意義	修士論文全体のまとめだけではなく、この研究の社会福祉学研究としての意義、研究成果が実践研究として社会福祉分野にどのような意味を持つのかについても考えること

■スクーリング事前学修(予習)(学修時間目安:35時間)

在宅学修15のポイントに基づき、それぞれの発表会、報告会での資料を作成すること。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	担当教員による研究計画書作成とプレゼンテーションの方法についての授業（主に先行研究のレビューの枠組みと研究デザインについて）	オンデマンド
2	学位請求論文中間報告会へ参加、聴講（1年次にM2の報告を聞く）	対面 or 同時双方向
3	学位請求論文構想発表会への参加、発表	対面 or 同時双方向
4	学位請求論文第2回中間報告会へ参加、聴講（1年次にM2の報告を聞く）	対面 or 同時双方向
5	学位請求論文中間報告会への参加、報告	対面 or 同時双方向
6	学位請求論文構想発表会へ参加、聴講（2年次にM1の発表を聞く）	対面 or 同時双方向
7	学位請求論文第2回中間報告会への参加、報告	対面 or 同時双方向
8	学位請求論文最終報告会への参加、報告	対面 or 同時双方向

※1～4回までを1年次に受講、5～8回を2年次以降（1～4受講後）に受講する。

■スクーリング事後学修（復習）（学修時間目安：20時間）

参加した発表会、報告会（自分が発表、報告を行った会は除く）での他の修士論文の報告を聞いて学んだことについては、各演習（ゼミ）で検討を行うので、各自で整理しておく。

■評価の方法・基準

それぞれの発表会、報告会での報告内容、プレゼンテーションの方法と討論への積極的参加の程度に基づいて総合的に評価する。各報告会の割合として、学位請求論文構想発表会25%、学位請求論文中間報告会25%、学位請求論文第2回中間報告会25%、学位請求論文最終報告会25%とする。

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

※大学から送付される必読図書はありません。

※指導教員から指示されます。